

相談援助演習Ⅲ

専門教育科目／4単位／TS授業

担当教員 福崎 千鶴（テキスト部分担当） ※スクーリング部分については、複数の教員により行う。

■使用テキスト 福祉臨床シリーズ編集委員会(編)『社会福祉士シリーズ 21 相談援助演習 第3版』弘文堂 2018

◆参考テキスト

- ・社会福祉養成講座編集委員会(編)『新版第2版 社会福祉養成講座 ⑮ 社会福祉援助技術演習』中央法規出版 2005
- ・川村隆彦(著)『事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク』中央法規出版 2003
- ・山田容(著)『ワークブック社会福祉援助技術演習① 対人援助の基礎』ミネルヴァ書房 2003
- ・山辺朗子(著)『ワークブック社会福祉援助技術演習② 個人とのソーシャルワーク』ミネルヴァ書房 2007
- ・岩間伸之(著)『ワークブック社会福祉援助技術演習④ グループワーク』ミネルヴァ書房 2004
- ・対人援助実践研究会 HEART (編)『77 のワークで学ぶ対人援助ワークブック』久美株式会社 2003
- ・川村隆彦(著)『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規 2002
- ・社会福祉教育方法・教材開発研究会(編)『新社会福祉援助技術演習』中央法規 2001
- ・久保紘章(著)『社会福祉援助技術演習(社会福祉士・介護福祉士養成講座)』相川書房 1996
- ・米本秀仁(著)『社会福祉援助技術演習(社会福祉選書)』建帛社 2003
- ・平野隆之・宮城孝・山口稔(編)『コミュニティとソーシャルワーク』有斐閣 2005
- ・白澤政和・福山和女・石川久展(編)『社会福祉士相談援助演習』中央法規 2009
- ・社会福祉士養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規出版 2015
- ・上野谷加代子監修 社団法人日本社会福祉士養成校協会(編)『災害ソーシャルワーク』中央法規 2013
- ・木原孝久(著)『支え合いマップ作成マニュアル』筒井書房 2011
- ・木原孝久(著)『日本の10の宿題』本の泉社 2003
- ・長谷川雅美・白波瀬裕美(著)『自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード』日総研出版 2001
- ・福山和女(著)『ソーシャルワークのスーパービジョン一人の理解の探究』ミネルヴァ書房 2005
- ・相澤譲治(著)『スーパービジョンの方法』相川書房 2006
- ・石川到覚・柏木昭(著)『「今、ここで」のかかわり』聖学園大学出版 2013
- ・松本峰雄(著)『第2版 社会福祉と人権問題』明石書店 2005

講義概要・一般目標

社会福祉援助技術演習の目的は、相談援助などの理論と知識を具体的な援助場面で発揮されることです。本授業では、基本的な知識と技術について確認を行うとともに、社会福祉のさまざまな対象へのソーシャルワーク実践として、ロールプレイ、事例検討等を通して展開していきます。

テキスト課題では、スクーリング授業、社会福祉援助技術現場実習にスムーズに導入していくための知識や理論整理を行い、スクーリングにおいては、より実践に近い授業展開を実施します。

スクーリング授業出席に当たって、相談援助演習のテキストの通読や社会福祉六法等の通読も事前準備として実施しておいてください。

到達目標

- 1) 地域特性を生かした地域福祉計画策定までのプロセスを理解する。
- 2) 地域の社会資源を理解し、資源を活用した支援について考察できる。
- 3) 地域における福祉ネットワーク構築の必要性を理解する。
- 4) コミュニティソーシャルワーク手法を理解する。
- 5) 住民参加型の地域福祉を理解する。
- 6) 福祉サービス評価について理解する。
- 7) プロセスレコードを用いることの意義および活用法を理解する。
- 8) スーパービジョンの目的及び方法を理解する。
- 9) 社会福祉における人権問題について考えることができる。
- 10) 社会福祉士の倫理・価値を理解する。

評価方法

T部分：科目単位認定試験（レポート）により評価。

S部分：出席状況（遅刻・欠席は不可）、受講態度、科目単位認定試験（スクーリング最終日に実施）。

学習指導

第5章 地域福祉と相談援助

この章ポイント

地域援助技術は、個別援助技術や集団援助技術と並んで専門職の主要な援助技術の一つです。地域援助技術は、直接援助技術が展開しやすいように環境を整える働きをする技術であり、地域で自立した生活を推進するための整備環境が求められます。地域のニーズや地域の課題を集約し、対象者の生活環境を整え、地域の中で支え、支えながら安心して生活できる福祉コミュニティづくりを目指します。

我が国の社会福祉の歩みと共に地域援助技術の概念規定も変化してきています。それらの歴史を貫いてきた考え方を地域福祉計画も考慮しながら整理してください。

また、地域援助技術の地域社会の性格、社会資源の整備状況、組織化を支援する活動の主体等といった構造や組織化、開発機能や連携・開発等といった機能についても理解してください。

ネットワーキング構築の必要性を理解し、コミュニティ・ソーシャルワークの手法が展開できるようにしてもらいます。そして、地域福祉計画のあり方を再考し、それぞれの地域の実情に応じた適切な展開ができるように考察してもらいます。住民参加型の地域福祉を展開できるようにその方法を学んでもらいます。そして福祉サービスの評価や評価基準について学んでもらいます。

第6章 演習・実習体験から学ぶ相談援助

この章ポイント

ソーシャルワークの定義や倫理綱領は、社会福祉士が、利用者の人権を侵害したり、恣意的・作為的な対応をすることによって利用者の利益を損なうことがないように、専門職としてめざすべき価値や目的を表し、望ましい実践と向かうべき方向を指し示し、専門職のとるべき態度を明確にするものといえます。

倫理綱領が示している職能団体の専門職として、目指すべき価値、目的や方向性について理解してください。

スーパービジョンの発展過程や、スーパービジョンの機能について理解し、実践的な知識・技術として獲得できるようにする必要があります。

ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの発展過程はケースワークの変遷に大きく依存してきました。ケースワークは各時代の社会的背景や価値観、隣接諸科学から多大な影響を受けましたが、それに付随する形でスーパービジョンも同様に影響を受けながら生成発展してきました。スーパービジョンをその発展過程の中で整理してください。

具体的な援助場面を再構成したプロセスレコードが活用でき、相談援助技術のグレードアップができるように、プロセスレコードの意義や手法などについて理解してもらいます。